

## H12

問17 原子吸光法における次の記述のうち、誤っているものを1つ選べ。

- 1 中空陰極ランプは単元素用の場合が多いが、2～4元素程度の測定に使用できる複合ランプもある。
- 2 バックグラウンド補正法で連続光源を用いる場合、分析対象元素の原子による吸収は無視できる。
- 3 バックグラウンド補正用連続光源として、重水素ランプやタングステンランプが一般に用いられる。
- 4 原子化方法としては、フレイム方式、電気加熱方式、及びアルゴンプラズマ方式などがある。
- 5 低温フレイムとしてプロパン-空気、また高温フレイムとしてアセチレン-酸化二窒素などが用いられる。

## H13

問17 フレイム原子吸光法の原子化部における以下の記述の中で、誤っているものを一つ選べ。

- 1 原子化部は、バーナー及びガス流量制御部から構成される。
- 2 試料溶液はネブライザーで噴霧されディスペンサーで微細ミスト化される。
- 3 噴霧室内の試料ミストを微細化するのには、原子化効率を上げるためである。
- 4 噴霧された試料は、燃料ガスと混合され、全量がバーナーに導入される。
- 5 アセチレン-空気、アセチレン-酸化二窒素などのフレイムが用いられる。

## H14

問16 電気加熱方式原子吸光法に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選べ。

- 1 共存する酸や塩の種類及び濃度の影響を受けやすい。
- 2 原子化温度を2000～3000Kにすることが出来る。
- 3 光の吸収や散乱を起こす分子種が生成するため、バックグラウンド補正が重要である。
- 4 黒鉛管に溶液を注入し、乾燥、灰化、原子化を行う。
- 5 黒鉛管内において、原子雲の生成が遅いほど高感度になる。